

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

# 地域医療連携便り 令和4年度 第1号

<http://www.hosp.pref.okinawa.jp/nanbu/>

Please check the URL/link. ▶

〒901-1193

沖縄県南風原町字新川118-1

Tel:098-888-0123 (代)

FAX:098-888-1212 (地域医療連携室直通)



## 当院の理念

こどもからおとなまで「大切な命を守り、県民に貢献する」病院



地域で安心して暮らしていくための  
脳卒中相談支援窓口ができました!



脳卒中・循環器病は発症すると後遺症を残すことも少なくなく、患者のQOLを損ない、死に至る病でもあります。発症後リハビリテーション、就労支援、介護、緩和ケア及び終末期までシームレスな医療と介護が受けられる体制が必要であり、地域の実態に応じて構築していかなければなりません。また、脳卒中・循環器病は再発や増悪をきたしやすい特徴があり、再発・再入院の予防、防止が重要な課題となります。脳卒中・循環器病疾患は加齢とともに患者数が増加する傾向にあり、高齢者人口がピークを迎える2040年頃に向けてより一層の対策が必要と考え、当院は、2021年脳卒中相談支援窓口を設置いたしました。



ご協力ありがとうございました。

令和4年3月1日から重症度・緊急度の高い患者様以外の救急外来受け入れを制限を行ってまいりました。5月9日から一般の紹介患者・紹介入院の受け入れも制限してまいりましたが、6月10日より外来の紹介制限を解除しました。しかし、救急室の逼迫・病床不足が未だ改善されていません。当院でなければ対応できない検査や治療に関しては対応してまいります。もうしばらく、救急への紹介は制限させていただきます。感染対策を適切に講じつつ、コロナも診る、コロナ以外もしっかり診るを徹底していきます。

# 地域で安心して暮らしていくための 脳卒中相談支援窓口の事例から…



脳卒中リハビリテーション  
看護認定看護師：照屋政美  
(SCU所属)

脳卒中の治療は日進月歩ですが、脳卒中を診察する医療体制もこの数年で変わりつつあります。脳卒中というのはまさに1分1秒を争う病気です（Time is Brain!）専門医による初期診断、早期治療を受けることで症状が劇的に改善、回復する事例も少なくありません。

## — Aさんご家族との関わりを通して改めて学ばせて頂いたこと —

脳出血を発症した70代のAさん。幸いにも麻痺はなく、自宅退院となりました。しかし娘さんは自宅での生活に不安がありました。

### 不安事

- 認知症を患っている
- 後遺症による高次脳機能障害（半側無視や注意障害等）
- 物事の理解のためには工夫が必要である
- 入院中はセンサーを用いて行動を注視していた
- 下肢筋力の低下から歩行に注意を要する状況
- 昼夜を問わず突然立ち上がり急に歩き出すため転倒のリスク
- ご自宅では高齢のご主人と娘さんが介護を行う



## 退院後、患者・ご家族の状態が気になり、患者さんの初回外来の日お話を伺いました。

身体のあちこちに打撲痕  
突然一人で  
歩き出すため転倒

床ずれ  
同じ姿勢でいることが多く  
床ずれができてしまった

認知症の進行  
金銭管理が  
むずかしくなった

入院時に比べ表情が暗い

ドアや窓の鍵を開けて  
勝手に出て行ってしまう

24時間目が離せずご主人と娘さんは  
夜間も交互に起きてAさんを見守っている

娘さんより：以前の生活からは考えられない行動を目のあたりにしている。かかりつけ医から入院の打診はあるが「母を見放しているのではないか。踏ん切りがつかない。どうしたらいいかわからない・・・」

## 支援介入

今後の介護を継続するためにもご家族の疲労困憊な状況を持続することは好ましくない。

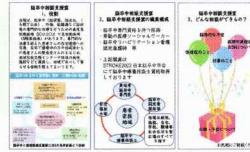
ケースワーカーと連携し一緒にご家族のお話を傾聴。かかりつけの入院の打診を受け入れることも一つの案だと提案

ショートステイや各種のサービスも提供すると「私たちも受けられるんですねよかった」といった声も聞かれ表情も明るくなった

## 脳卒中認定看護師：照屋より

後遺症の大小にかかわらず

退院後、患者さん・ご家族の「困り事」は少なからず出てきます。昨今では感染症の蔓延でご家族は入院中の患者さんに面会できない状況が続いており、電話で病状や状態は説明されますが、入院生活の様子を見ることはできません。実際に自宅に戻ってみて「あれ？できると思ってたのに・・・」「ここまで麻痺が強いと思わなかった」などの声も聞かれます。他にも、症状だけでなく経済的な面や、若年化した脳卒中患者の増加により若い方の仕事復帰、車の運転など問題は様々です。当院には脳卒中の患者さんやご家族の方が安心して地域で暮らすための相談支援窓口があります。



リーフレットもあります。ご希望の方はお声かけください



## 小児心臓外科領域における 低侵襲(皮膚小切開)手術のご紹介



小児心臓血管外科部長 西岡雅彦

小児心臓外科チームが行っている小児低侵襲(皮膚小切開)心臓手術をご紹介します。右腋窩縦小切開手術という腋窩においた縦6cmの皮膚切開から全ての操作を行う手術です。小児心臓外科領域において低侵襲(小切開)手術の主な要因は美容的側面です。心臓の手術は安全かつ確実であることが最優先されますが、'手術の傷跡'が子供たちに何らかの影響を及ぼしてしまう可能性も考えなくてはなりません。'手術の傷跡'が'小さい、見えない'という事も重要なことです。

一般的な皮膚小切開手術としては胸骨下部正中切開手術(図1)や前側方開胸手術(図2)などがありますが、どちらも患者さん自身から見える位置に傷があり、水着になれば他の人からも簡単に見えてしまいます。また、胸骨下部正中切開では胸骨を切開するため術後一定期間は運動が制限され、前側方開胸では成長に伴う胸郭の変形や女兒の場合は将来的な乳房変形の可能性が指摘されています。右腋窩縦小切開法は、中腋窩線上で第4肋間を中心に約6cmの皮膚切開のみ(図3)で行います。切断される筋肉も肋間筋に限定されるため将来的な運動機能の問題や胸郭、乳房の変形も防ぐことができます。手術時間は約2時間30分程度で入院期間は術後5-7日と正中切開手術と大きく変わりません。図4は術後1か月目の手術創部の写真です。現在は体重10Kg以上の心房中隔欠損症を適応としていますが、今後適応疾患を拡大していく予定です。

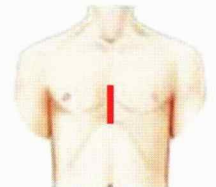


図1 胸骨下部正中切開

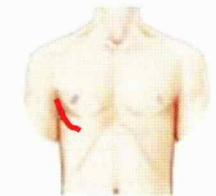
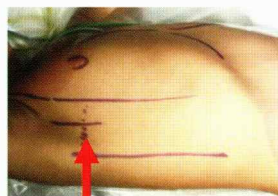
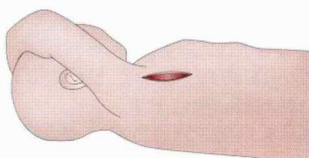


図2 前側方開胸

図3 右腋窩縦小切開



皮膚切開ライン

中腋窩線第4肋間を中心に縦切開

### 手術創写真

右側面

正面



図4 術後1か月 6歳、体重22Kg

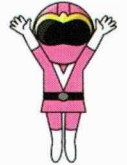


## 小児外科紹介

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 小児外科からのお知らせです。2022年度から2名→4人体制になりました。新体制では緊急や時間外の紹介に柔軟に対応できます。腹腔鏡をはじめ、全国区と同じ、高度医療をいつでも提供いたします。新体制で経験値：51→93、装備力：2→13、機動力25→50にパワーアップしています。地域に愛される小児外科を目指します。今後ともどうぞよろしくお願いいたします  
(小児外科 金城 僚)



**楠川幸弘(イエロー)：**  
日本小児外科学会専門医、指導医取得のため、研修を行い実践に対応できるように修練してきました。全力で働かせていただきます。



部 長(小児外科レッド):金城 僚



**都築行広(グリーン)：**  
沖縄県立病院群で外科研修後、神奈川県立こども医療センターで小児外科トレーニングを積んで沖縄へ帰って参りました。新生児、重症心身障害児、小児悪性腫瘍と、幅広い小児外科疾患に対応致します。



副部長：大城清哲（ブルー）



副院長兼センター長  
福里吉充（小児外科）

## 眼科紹介

令和4年4月より眼科医師、**知念央恵（ちねんひさえ）**先生を迎え、宮里智子先生と診療を開始しています。昨年令和3年8月から制限をかけていた白内障手術もこれから少しずつ対応していきます。しかしながら、全身麻酔が必要な症例、白内障の難症例は体制的にまだ、対応はできません。斜視・弱視などの症例に関してはご相談ください。



宮里智子先生 知念央恵先生



NICU患児を診察する知念先生

## 紹介・初診の予約・入院調整患者の紹介方法はホームページから



当院への紹介方法はホームページの**医療関係の方へ**、をクリックし**患者様の紹介**についてから閲覧できます。また、受診予約申し込み書・事前確認シートもダウンロード出来ます。

紹介の際は、当院地域医療連携室・入退院支援部門へ「**診療情報提供書（紹介状）**」「**受診予約申し込み書**」「**事前確認シート**」をFAXして頂くようお願い致します。（当院の外来への紹介の際は事前調整が必要となります）



FAXが届き次第、担当診療科医師と相談後直接患者ご本人と外来日の調整・案内を行っていきます。外来予約日が決まりましたらFAXで紹介元の貴院様へお知らせ致します。診療科によっては、1週間ほどお時間がかかることもございます。円滑な連携にご協力をお願い致します。なお不明な点は遠慮なく地域医療連携室へご連絡ください。

地域医療連携室・入退院支援部門  
看護師長 仲田朝子・富山鈴華

